

令和7年度 立科町総合教育会議録

日時 令和7年12月23日（火曜日）午後4時05分～午後4時45分

場所 立科町役場 大会議室

参集委員	立科町長	両角 正芳
	立科町教育長	塩澤 勝巳
	教育長職務代理者	飯島 正茂
	教育委員	池田 広
	教育委員	遠山 貴美枝
	教育委員	今井 愛子

事務局 竹重 総務課長 岩下 財政係長 羽場 教育次長 山口 保育園長
伊藤 社会教育・人権政策係長 上原 児童館係長 山浦 学校教育係長

欠席 なし

傍聴者 1名

協議事項

- (1) 今後の学校運営について
- (2) その他

羽場次長 ただいまから、令和7年度第2回立科町総合教育会議を始めさせていただきます。それでは始めに、両角町長からご挨拶をお願いいたします。

両角町長 皆さん、改めましてこんにちは。本日は、師走の大変お忙しい中、第2回総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。第1回の会議では、教育大綱の見直しについて多くの貴重なご意見をいただきました。地域の実情や子どもたちの姿を踏まえた提案の一つ一つが、立科町の教育の方向性を考えるうえで大きな力となりました。改めて感謝申し上げます。さて近年、少子化の進行や教職員の働き方改革、部活動の地域展開など、子どもと学校を取り巻く状況は大きく変わっております。その中で立科町も、子どもたち一人ひとりが存分に学び、将来の夢や希望を持てるようにすることが、私たち大人の責任であると考えております。そのためには、子どもたちにとって学校は安心・安全で、楽しく行きたいと思える場所であるとともに、教職員にとってやりがいをもって働ける職場であり、また保護者・地域の皆さまにとって、共に子どもを育てているという実感ができることが、これまで以上に大切であると思っております。本日の会議では、今後の学校のあり方や地域との連携の進め方、教職員の働きやすい環境づくりについて、率直なご意見を賜りたいと考えております。町としましても、教育委員会と連携しながら、いただきましたご意見を今後の学校運営に生かしてまいります。教育委員の皆さま方には、今年度も残りわずかでございますが、健康には十分ご留意いただき、来る年が素晴らしい年になりますこと、またご活躍をいただきますことを心よりご期待申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

羽場次長 両角町長、ありがとうございました。
それでは協議事項に入りたいと思います。本日、竹重総務課長と岩下財政係長にご出席をいただいております。
それでは、両角町長に進行をお願いいたします。

両角町長 それでは、早速協議事項に移らせていただきます。
(1) 今後の学校運営について、説明をお願いいたします。

塩澤教育長 私の方から説明をさせていただきます。よろしくをお願いいたします。
まず、令和8年度の児童生徒数および学級編成数であります。
小学校全生徒数は236名。うち支援学級に在籍になるであろう生徒数が26名、通常学級が210名であります。学級数は10学級となります。
1年生 26名：1学級
2年生 38名：2学級
3年生 31名：町独自の30名規模学級に該当するため2学級
4年生 39名：2学級
5年生 29名：1学級
6年生 47名：2学級
中学校です。今年度、小学校を卒業する生徒数が41名おりますが、うち2名が他の中学校に進学すると伺っております。したがって1年生は39名。うち6名が特別支援学級在籍予定となっているため、通常学級は33名となります。中学校は36名以上でないと2学級にならないため、1学級となってしまいます。
2年生は43名。うち4名が特別支援学級在籍となるため通常学級は39名となり、2学級となります。
3年生は40名。うち特別支援学級が7名で通常学級は33名となり、1学級となります。
中学校は合計122名、特別支援学級が17名、通常学級が105名となり、通常学級数は4学級となります。
小・中合計で358名、支援学級が43名、通常学級が315名で、学級数は14学級という見込みであります。
特別支援学級ですが、8名を超えますと2学級となるため、小学校は知的障害学級2学級、情緒障害学級2学級になります。中学校は知的障害1学級、情緒障害2学級となる見込みです。
続きまして、小学校の学級数の推移になりますが、令和9年度は1学級と2学級が同数となります。令和12年度には、1学級が4学年、2学級が2学年となり、徐々に複数学級編成ができなくなってしまうと思います。出生数も今後30人を超えてくることはないのではないかと思います。現時点で出生されている子どもたちは、1学級編成になってしまうとお願いいただいた方がよいと思います。
近隣の小学校の学級数についてですが、小諸市では3校が統合、川上村では2校が統合、南牧村も統合の予定となっております。ただ単に1学級になってしまったから統合ということではなく、地域の中で「子どもたちのために」というところを保護者に認知してもらうことが重要であると考えます。立科町としても、

今後のことを進めていかなければならないと思います。そこに関しては、教育委員の皆さんと意見交換しながら考えていく必要があると思います。

池田委員 小諸市の統合に関してお聞きすると、長年の協議の中で進めてきたとのお話がありました。立科町としても町政との兼ね合いもありますので、まずは私たちが勉強することが重要であると思います。なるべく早めに開始できればよいのではないかと思います。

両角町長 池田委員のおっしゃるとおりだと思います。学校のあり方や地域の皆さんとの兼ね合い、特に保護者もそうですし、資金的なものも含めて考えると、行政も絡んできます。そういうことを考えると、まず皆さんが勉強しながら検討することが第一段階なのだと思います。

塩澤教育長 池田委員のおっしゃるとおりだと思います。まずは教育委員会が方向性を示していき、立科町と協議していくべきだと思います。来年度から進めていきたいと思っております。

両角町長 知ることはとても大事であると思います。いろいろな事例等を加味しながら、教育委員会関係の皆さま方で議論や勉強会を実施していただき、そこから出てきた提案等を行政の方に上げていただくのがよいのではないかと思います。

飯島職務代理 中学校は4学級で、9教科の教員がそろっていない現状があり、立科町が足りない教科の教員を補充して維持している状態が続いていると思いますが、生徒数・学級数が減ってくると教員数も減ってくる現状があります。

現在の校舎は小学校が50年、中学校が40年となっていますが、このあとどれくらい今の校舎で安全に学べるかという先の見えない不安があります。安心・安全に学校生活を送れる校舎というのは、近いところで必要なのではないかと思います。小学校と中学校を独立した形がよいのか、小中一貫校とした方がよいのかは分かりませんが、そういったことも課題の一つかと思います。

塩澤教育長 小学校は来年で50年を迎えます。修繕箇所はいろいろ出てきていますが、授業などに影響するところは今のところありません。ただ、50年経過しているのも、あと10年くらいが目途ではないかと思っています。子どもたちの安全を第一に考えていくのが基本だと思っています。その中で方向性をどうしていくか、併せて考えていかなければいけないことだと思います。

遠山委員 先生が減ってしまうと、在籍している先生の負担が大きくなってしまいう現状があると思います。そういったところに関しても、立科町独自の枠を考えていただくと、立科町の良さを生かしていただけるのではないかと思います。

両角町長 立科町らしさを出せてきていると思うので、そこはさらなる発展が必要なのだと思います。子どもたちを伸び伸び成長させていくためには、やはり教員数が必要です。ここに関しては、行政としてもやっていきたいという思いでいます。

学校の修繕に関しても教育委員会の方で計画的にやってもらっています。しかし今のままとはいかないのが、教育委員会とも一体となってやっていきたいと思えます。立科町の30人学級というのは独特で、他ではやっていませんので、そこをこれからも生かしていきたいと思えます。

塩澤教育長 小学校、中学校ともに町費で先生方をお願いしています。これは町長の理解もそうですし、また議会の皆さんにも同意をいただいて予算確保できているということで、教育という面では本当に理解をいただいてありがたいと思っております。これからの立科町を背負っていく子どもたちの育成でもあるので、これからも引き続きやっていきたいと思えます。

両角町長 まずは、教育委員会の中でしっかり議論していただいて、研究していただいて、勉強していただいて、その成果をぜひ教えていただき、次の段階に入っていただければよいと思っております。これからも教育委員の皆さま方にはお力添えを賜りたいと思えますので、よろしく願い申し上げます。

両角町長 その他によろしいでしょうか。それでは、(1) 今後の学校運営については、これで終了とさせていただきます。

両角町長 次に(2) その他について、何かありますか。その他はないようですので、協議事項は以上とさせていただきます。事務局にお返しします。

羽場次長 両角町長、進行ありがとうございました。また、竹重総務課長、岩下財政係長、出席ありがとうございました。
教育委員の皆さまには、この前に開催しました定例教育委員会を含め、長時間にわたり大変貴重なご意見等をいただき、誠にありがとうございました。以上をもちまして、令和7年度第2回立科町総合教育会議を閉じさせていただきます。